

## 上諏訪市街地の町内会人口の激減と課題についての考察（素描）

- 「上諏訪市街地」とは、リポ No.4の「上諏訪東部市街地」から戦後誕生の山麓団地町内会と角間新田を除いた地域
- 「上諏訪市街地」を、その地域性より3つの地区に分けて、その典型的な町内会を中心に例示した。

### 1. 国道沿い商店街の町内会人口の激減と課題

城下町以来の商店街である清水町から、鉄道開通後にひらけた本町商店街へと、国道沿いにのびる商店街。

清水町、角間町、桑原町、上町、仲町、末広町、本町2、本町1。

戦後昭和 30 年代までは諏訪地方南部農村の小売商業の中心地として繁栄した。

精密工業全盛時には、セイコーエプソン・東洋バルブ・チノン・三協精機などの多くの社員が働く大規模工場があったが、その後相次いで閉鎖され、国道沿いにあった官公庁も移転してしまった。

#### S.40～H.22年の45年間の減少

	人口	世帯数
本町	22%に	43%に
末広町	23%に	26%に
角間町	33%に	56%に

#### 商業地としての危機感

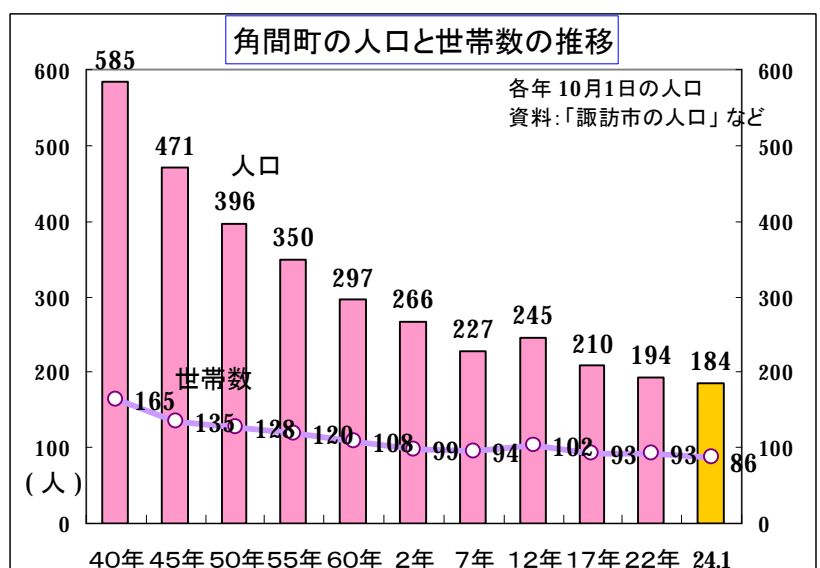
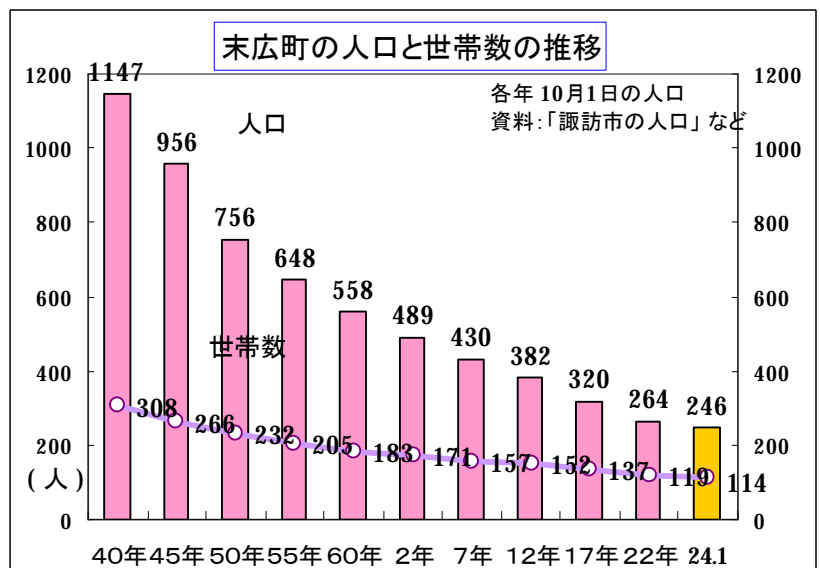
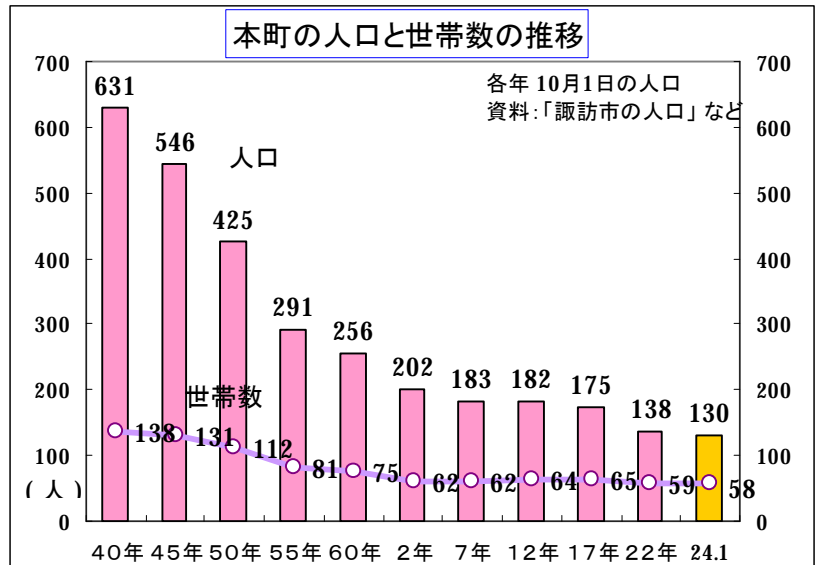
- 商店街の商業従事者の減少
- 閉店舗・空き家・駐車場(空地)の増加
- 人口と世帯数の激減---住民の離脱
- 市街地住民の消費需要の激減
- まるみつデパート閉店
- 生鮮食品スーパーの消滅

#### 宿年の課題

市街地商店街に、かつてのにぎわいをとり戻したい

#### 未来思考の課題

- 「便利で住みよく、快適に安心して暮らせるまちづくり」の中での駅周辺市街地の位置づけ（役割）



## 2. 駅西側～湖畔の市街地でも同様の人口の激減

戦前より夜の飲食店街として賑わい、諏訪湖・上諏訪温泉の観光地として湖畔を中心に旅館や大型ホテルが数多く開業している。しかし、温泉地情緒の旅館街は形成されず、湖明館通りに商店街があるのみ。

高層マンションの建設が昭和期にはじまり、近年は相次いで建設され開業している。5階以上のマンションは8棟あり、現在1棟が建設中で住民の減少の歯止めとなっている。

### S.40～H.22年の45年間の減少

	人口	世帯数
大手・西大手	35%に	61%に
中浜町	39%に	78%に
湖柳町	45%に	72%に

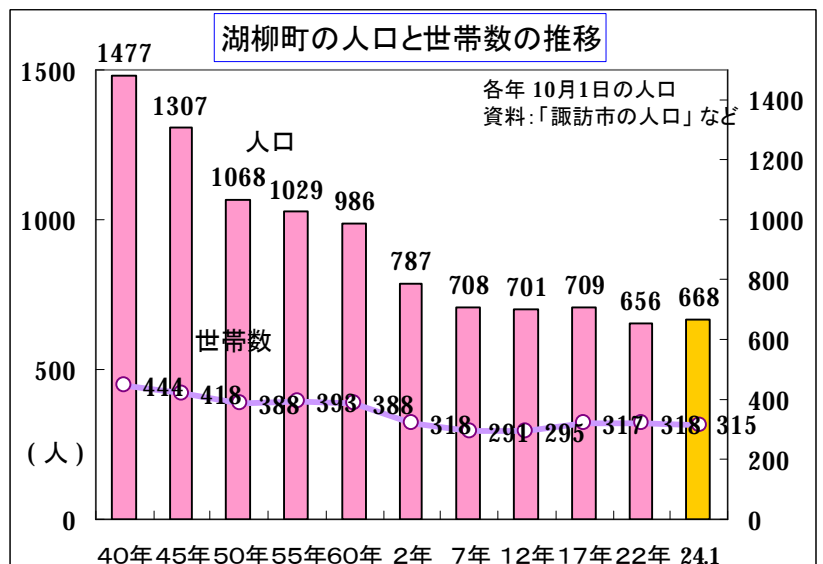
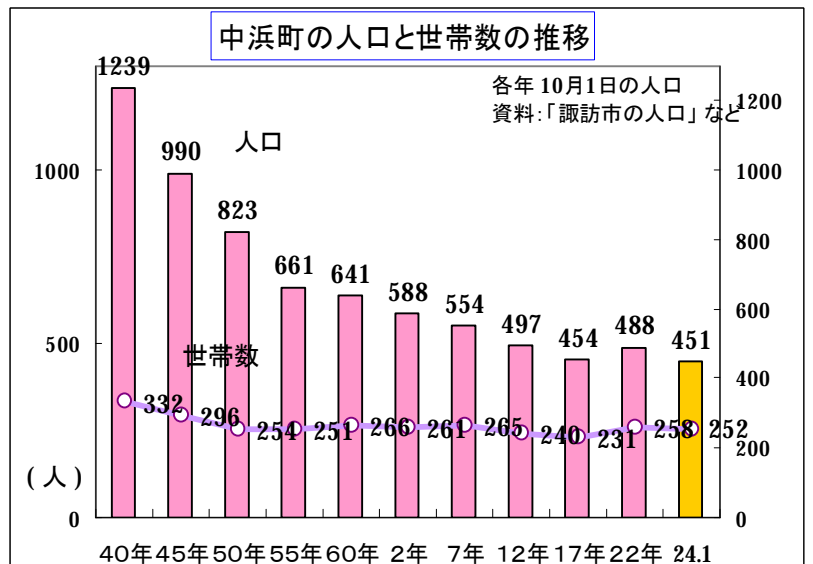
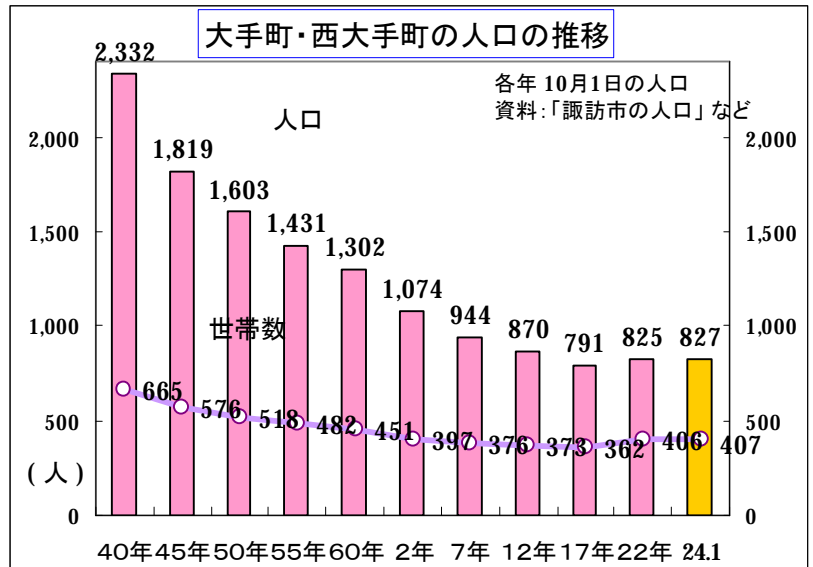
### 市街地に住む魅力

- 分譲マンションが次々建設されるということは、分譲業者もマンション購入者も上諏訪市街地の住みよさというメリットを見すえてのことと考えてよいだろう。

但し、生鮮食品購入の不便さは商業機能の不全といってよいだろう。

- 駅周辺では、数多くのサービス業種やインフラの集積があり、これを活用できるメリットが大きい

医療・交通・教育・金融・理美容・商店・飲食店・専用歩道・並木樹木・小公園・建造物・市民会館・プラザ催場・市営駐車場2・・・



### 3. 小和田地区、岡村地区、大和地区にも人口の激減と課題

江戸時代以来の、城下町をとりまく農業集落。国道沿いの商店街に隣接している。現在は住宅地であるが、次世代が居つかず出て行くため、人口減少と高齢化が著しい。

超高齢化により、地域コミュニティを維持する力が限界を越えた集落を限界集落とよび、高齢化率50%をその指標としているが、これに近づきつつある町内会が多い。

#### S.40～H.22年の45年間の減少

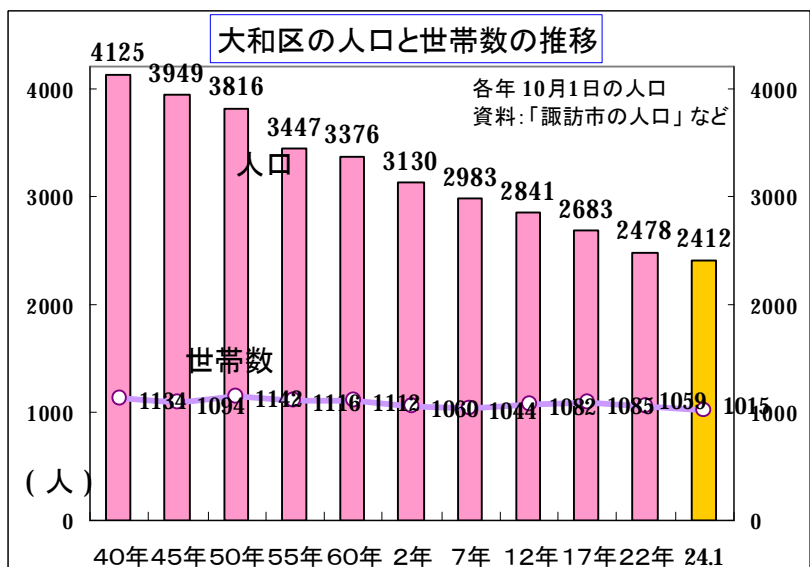
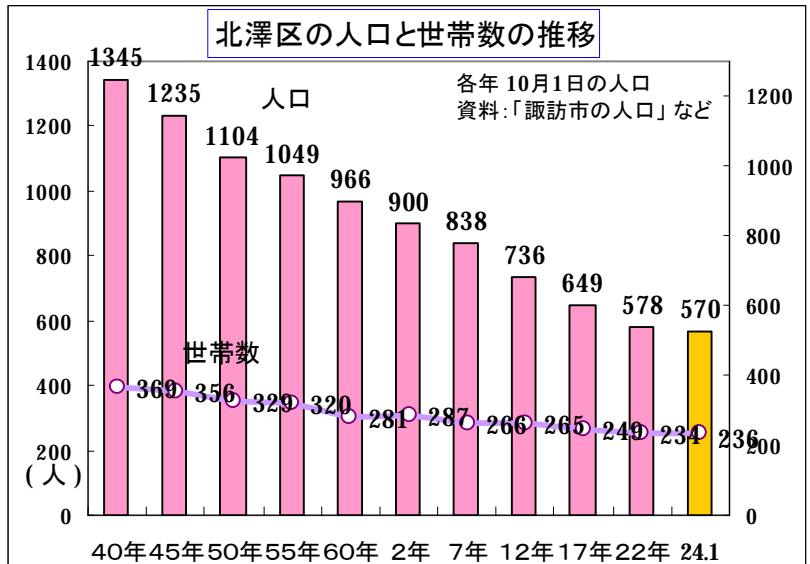
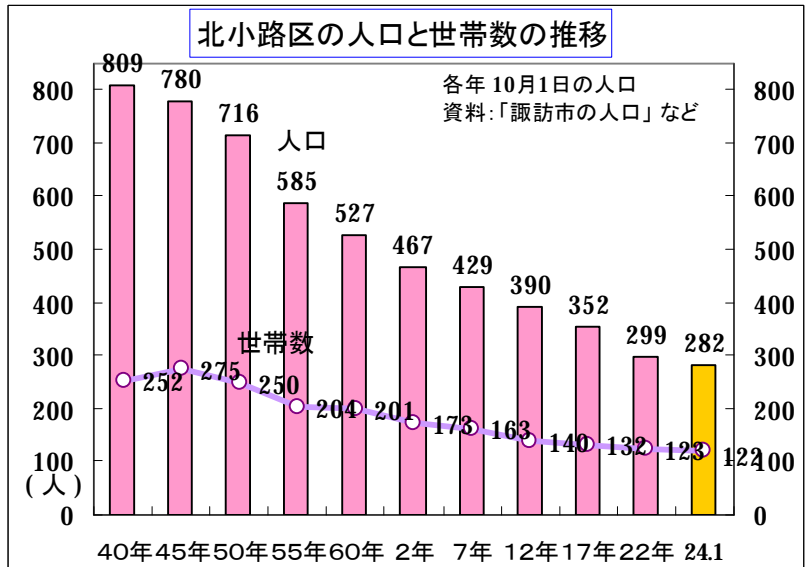
	人口	世帯数
北小路区	37%に	49%に
北澤区	43%に	63%に
大和区	60%に	93%に

#### 地域力の減退への危機感

- 次世代が地域に住みつかない
- 超高齢化がすすむ（40%前後以上）、
- 中でも後期高齢者の比率が激増
- このままでは、人口激減と超高齢化がますます進む。
- 空き家や廃屋の増加

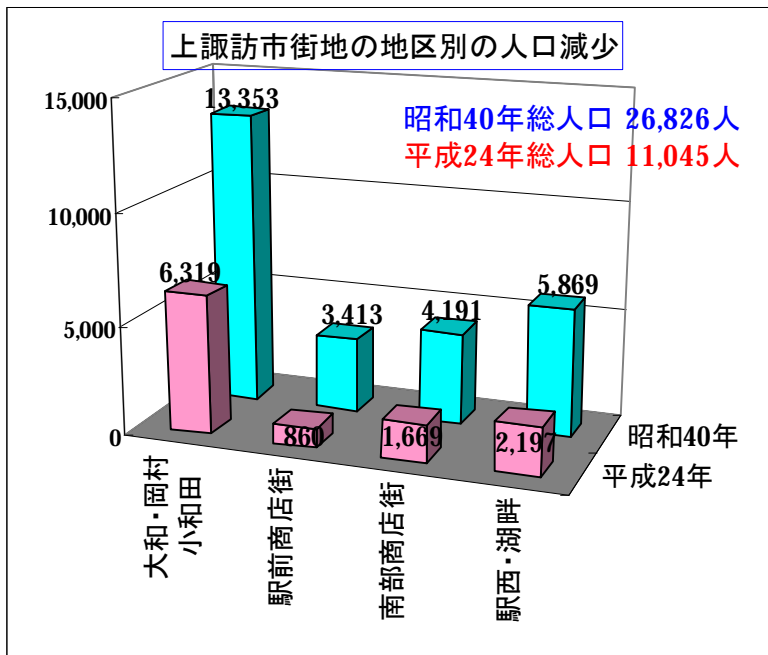
#### 課題 新しい地域イメージの形成

- 子育て世代が住みつきたくなる地域に
- 老後は住みよく安心して暮らせる地域に



#### 4. 上諏訪市街地と駅前商店街の46年間ににおける人口の激減と比重の低下

「国道沿い商店街」を、「駅前商店街」と「南部商店街」に分け、4地区で考察した。



大和・岡村・小和田地区

大和 [大和・湯の脇・中村]

岡村 [北澤・南澤・榊町]

小和田 [島崎・城南1・みどりを除く小和田地域]

駅前商店街 [富浜・浜町・本町・仲町・片羽・末広・和泉]

南部商店街 [上町・柳町・桑原・伝柳・角間・清水・赤羽]

駅西・湖畔 [大手・西大手・湖柳・中浜高島・衣の渡]

上諏訪市街地	4地区	人口			世帯数		1世帯当たり人数	
		昭和40年	平成24年	人口の減少	昭和40年	平成24年	昭和40年	平成24年
	大和・岡村・小和田	13,353	6,319	53%減少	3,729	2,653	3.58	2.38
	駅前商店街	3,413	860	75%減少	952	398	3.59	2.16
	南部商店街	4,191	1,669	60%減少	1,115	703	3.76	2.37
	駅西・湖畔	5,869	2,197	63%減少	1,697	1,091	3.46	2.01
	合計・平均	26,826	11,045	59%減少	7,493	4,845	3.58	2.28
	諏訪市全体	46,276	50,639	9%増加	12,178	20,753	3.80	2.46

(1) 諏訪市人口は9%増加したのに、上諏訪市街地人口は59%減少し、半分以上の41%に激減した

昭和40年の市街地人口26,826人が46年後の平成24年には11,045人へと激減した。この間、諏訪市全体の人口は9%増加している。市街地は、昭和40年には市全体人口の58%と半数以上を占めていたが、平成24年には22%を占めるにすぎず、その比重が著しく低下した。

(2) 駅前商店街の人口は75%減少し、25%と4分の1に激減した

昭和40年の駅前商店街の人口3,413人が、46年後の平成24年にはわずか860人へとわずか25%に激減した。駅前商店街の衰退とその振興は長年の課題であったが、各種対策をすすめてきたにもかかわらず、その人口がここまで減少した原因について分析をすすめる必要がある。

(3) 住宅地域の人口はほぼ半減した

大和湯の脇・岡村・小和田地区は農家も少なく住宅地域であるが、人口は53%減少しほぼ半減。住宅の多い南部商店街や駅西・湖畔などでは60%前後減少したが、駅前ほどひどい減少ではない。

(4) 市街地の世帯数は65%に減少したが、人口の減少ほど酷くはない。

(5) 1世帯の家族数は著しく減少したが、2.3人前後で市全体や地区の間で大きな差はない

昭和40年には3.5人前後であった1世帯あたり家族数が、平成24年には2.3人前後へと著しく減少した。これは全国的な傾向でもあり、市内でもそれほど大きな差はない。超高齢社会で高齢者が多くなり、高齢者の多くが夫婦だけや一人暮らしをするようになった結果である。